

地元と協力態勢構築

チリ大地震緊急医療活動

AMDA医師ら帰国会見



チリ大地震被災地での活動を報告する森田医療調整員（右から2人目）ら

回健康診断も行った。森田佳奈子医療調整員(30)は「配給のみに重点を置くのではなく、衛生・育児指導を通じて健康を守る知識を伝えることに力を尽くした」と説明。津曲兼司医師(53)は「AMDAが核となって医療機関や軍が協力する態勢を整えることができた。感染症の流行が懸念されるが、この態勢を有効に活用すれば、現地のみで対応できるだろう」と話した。

2月27日に発生したチリ大地震はマグニチュード(M)8.8。

チリ政府によると死者は486人、行方不明者96人。AMDAは20日までに医師ら6人を現地に派遣した。

(船越元洋)

本社内HPに動画

チリ大地震の被災地で緊急医療活動を終えた国際医療ボランティアAMDA(本部・岡山市)のメンバー4人が帰国し20日、現地を取り組んだ「乳幼児緊急支援プロジェクト」について同市内で報告した。

同プロジェクトは、地震発生後にAMDAの被災地調査で、低所得者が多い地域に政府の支援が行き渡らず、特に子どもにしわ寄せが行っている状況があることから実施。地元医療機関やチリ政府軍などと共同で「乳幼児検診実施チーム」(計67人)を構成し、最も被害の大きかったマウレ州のコンステイトゥシオンで、粉ミルクなど支援物資100セツトを配給、子どもの巡

チリ大地震の被災地で緊急医療活動を終えた国際医療ボランティアAMDA(本部・岡山市)のメンバー4人が帰国し20日、現地を取り組んだ「乳幼児緊急支援プロジェクト」について同市内で報告